

日本の貨物列車 東北編 正誤一覧

日本の貨物列車「東北編」をお持ちの方にお知らせいたします。

キャプション(字幕)やナレーションに誤りが判明した部分について、お詫びして訂正させていただきます。今後、DVDをご覧いただく際に、下記の訂正部分を参考にしていただいた上で、お楽しみください。

記

【正誤訂正】

【第3部】

1. 小坂鉄道の硫酸輸送の貨車のナレーションに誤りがありました。

誤 タンク車の車体には、私有貨車であることを示す
数種類の会社名が標記された車籍銘板が貼られていました。

正 タンク車の車体には、私有貨車を**所有している各会社の
商標とともに社名板も掲げられていました。**

解説	車籍は「日本国有鉄道」や「JR貨物」であり、車端の台枠部分には楕円形をした金属製の銘板が溶接されていました。 ところで私有貨車に取り付けられた商標は時期によって変化が見られます。一方、社名板は、合併や買収によって社名変更が生じた場合や、貨車が他社へ譲渡されて所有者が変更された時などには、原則として交換されますが、実際には交換作業が行われるまで、長期間にわたって古い標記のまま運用されることが多かったようです。
----	--

【第4部】

1. 旧 1653 レを俯瞰撮影したシーンに重ねたナレーションに誤りがありました。

誤 首都圏や近畿圏から秋田経由で大館駅に送り届けられる無蓋コンテナは一旦秋田貨物駅に集められて、この列車で大館駅まで輸送されます。

正 首都圏や近畿圏から**羽越線経由**で輸送される廃棄物用の無蓋コンテナは、秋田貨物駅でこの列車に集約された上で、大館駅へと向かいます。
これとは別に、東北・奥羽線経由で東青森から大館に到着するUM12A形式無蓋コンテナやUH8A形式ホッパコンテナもありました。

解説	現在、大館駅まで輸送される廃棄物用コンテナは秋田貨物駅からのみとなっています。
----	---

2. 2093 レに重ねたナレーションに誤りがありました。

誤 この列車のコンテナは多種多様で、青いUM12A形式無蓋コンテナは金属素材輸送用です。

正 この列車のコンテナは多種多様で、青い**UM14A**形式無蓋コンテナは金属素材輸送用です。

3. 2092レ(常磐線)の走行シーンに重ねたレーションに誤りがありました。

誤 編成の中ほどに、オレンジ色のフレームがあるタンクコンテナは、ISO規格の22T6形式で、山陽線・大竹駅と小名浜のクレハの間で運用されており、塗料の原料となるプラクセルMの返空です。

正 編成の中ほどに、オレンジ色のフレームがあるタンクコンテナは、ISO規格の22T6形式で、山陽線・大竹駅と福島臨海鉄道の小名浜駅の間で運用されています。**荷受け企業は小名浜の大日ケミカル**で、この列車に積載されたコンテナは返空です。

なおプラクセルMは塗料の原料となる化成品です。

解説 発送元は、大竹のダイセル化学工業(現：ダイセル)でした。

【第5部】

1. 磐越東線、常磐線(5690レ)、男鹿線(5185レ)などを走る貨車に関するキャプションとナレーションに、断続的に誤りがあります。

誤 車籍

正 所有者

解説 車籍は「JR貨物」となります。JR線上を走行するためには、JR貨物籍へ編入しなければならない規定があります。

2. 5861レ(仙山線・奥新川出発のシーン)に重ねたナレーションに、誤りがありました。

誤 この列車も、当初は奥羽線で板谷峠越えをするルートでした。

正 この列車は、当初から**仙山線経由**で運転されていました。

解説 板谷峠を越える列車に運用されていたのは、セメント輸送用の貨車のみで、ガソリン輸送はもともと仙山線経由でした。

【第6部】

1. 重連機関車の形式を示したキャプションに誤りがあります。

誤 EF71重連牽引

正 前補機がED78、本務機がEF71の重連牽引